

透析患者における Arterial Verocity Index と Arterial Pulse index の検討

町田 慎治 1、大石 大輔 1、松井 勝臣 1、今井 直彦 1、白井 小百合 1、柴垣 有吾 2

1 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院、2 聖マリアンナ医科大学病院

近年、血圧測定時に血圧脈波を解析するオシロメトリック血圧測定器が開発され、より簡易に日常血圧測定時の血圧脈波から Arterial Verocity Index (AVI)、Arterial Pulse volume Index (API) などの動脈硬化の指標が測定可能となり、有用性が報告されている。しかし、これまで透析患者における AVI や API の報告は少ない。今回我々は、当院外来通院中の PD 患者と HD 患者に対し AVI・API の測定、比較検討を行った。対象は、2013 年 7 月から 2015 年 12 月に当院外来通院されている HD 患者 19 名（年齢 73 ± 9 歳、男性 12 名、糖尿病 6 名、透析継続期間 20 ± 35 ヶ月）および PD 患者 9 名（年齢 68 ± 11 歳、男性 6 名、糖尿病 3 名、透析継続期間 12 ± 17 ヶ月）とした。AVI・API の測定には志成データム社 AVE1500PASESA を使用した。PD 患者における、AVI・API は、それぞれ 23.2 ± 2.8 , 27.1 ± 9.0 、また HD 患者における AVI・API は、それぞれ 34 ± 9.2 , 37.9 ± 7.9 であった。 $(p=0.004, p=0.002)$ 。PD 患者において、API は収縮期血圧($r=0.98, p=0.001$)と有意な正の相関を認めた。また、HD 患者において AVI は BNP($r=0.84, p=0.001$)と、API は収縮期血圧($r=0.75, p=0.001$)と有意な正の相関を認めた。簡易に動脈硬化の評価が可能なオシロメトリック血圧測定器は、透析患者においても有用な検査法となると考えられる。